

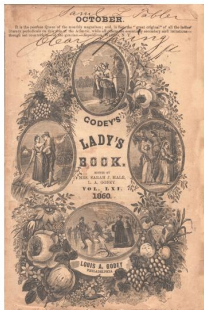
# Coherent Digital History Commons: Women's Magazines & Newspapers 女性向けの雑誌と新聞 デジタル・アーカイブ

## 激動の 19 世紀アメリカにおける女性の役割への理解を深める

本アーカイブは、19 世紀から 20 世紀初頭（1830 年から 1913 年）までの、アメリカでもっとも影響力のある女性たちによって書かれた新聞・雑誌のコレクションであり、**選りすぐりの以下の 9 つの雑誌・新聞の完全版と女性の権利に関連する記事のコレクション**を収録しています。

- Godey's Lady's Book
- The Woman's Tribune
- The National Standard: A Women's Suffrage and Temperance Journal
- The Lily
- National Citizen and Ballot Box
- The Revolution
- The New Citizen, Seattle, Washington
- The Western Woman Voter
- The Remonstrance
- The 19th Amendment Victory

### Godey's Lady's Book



Godey's Lady's Book の全巻を提供し、カラープレートが原版のまま収録されている唯一のコレクションです。このプラットフォームでは、クロモリトグラフ、カラープレート、カラープレートファッション、広告、漫画、線画、版画、ファッションプレート、イラストレーション、地図、メゾチント、肖像画、楽譜、テーブル、木版画などを、フィルターを用いて、イメージタイプ別に検索を制限することができます。

1830 年、Louis Antoine Godey (1804-1878) はフィラデルフィアで『ゴデーズ・レディーーズ・ブック』(Godey's Lady's Book) の発行を開始しました。初期の号には、豊富なファッションの解説やプレートのほか、伝記的なスケッチ、鉱物学、手芸、女性の衣装、ダンス、馬術、健康と衛生、レシピと治療法などの記事が掲載されており、毎号 2 ページの楽譜も掲載されていました。この雑誌は、ハリエット・ピーチャー・ストウ、エドガー・アラン・ポー、ナサニエル・ホーソーン、ヘンリー・ワズワース・ロングフェロー、その他多くの 19 世紀の著名な作家たちによる幅広い書評や作品を掲載する重要な文芸誌へと次第に成熟し、彼らは定期的にエッセイ、詩、短編小説を寄稿しました。Godey's Lady's Book はまた、手彩色のファッションプレート、メゾチント、版画、木版画、クロモリトグラフなど、美しい挿絵の膨大な宝庫でもありました。

1836 年、Godey はボストンを拠点とする『アメリカン・レディーズ・マガジン』を購入し、自身の出版物と合併させます。ここで最も重要なのは、Sarah Josepha Hale (1788-1879) が新しい編集者となり、雑誌に実質をもたらした、Woman's Sphere という概念について頻繁に執筆したことにあります。社会的不平等やアメリカ女性の教育に関する彼女の確固たる目的意識と揺るぎない編集方針は、彼女を当時最も重要な編集者の一人としました。Mrs. Hale のもとで雑誌は繁栄し、南北戦争前の発行部数は 15 万部に達しました。Godey と Hale は、アメリカの出版界で不動の地位を築き、今日、19 世紀アメリカの生活と文化を考察する上で最も重要な資料のひとつとされる雑誌を共に生み出しました。

History Commons について詳細のお問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**



FAR EASTERN BOOKSELLERS  
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル  
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル  
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761  
075(353)2093 FAX (353)2096  
092(751)6956 FAX (741)0821

URL:<https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail:[info@kyokuto-bk.co.jp](mailto:info@kyokuto-bk.co.jp)

## The Woman's Tribune



本コレクションは、全 724 号すべてを収録した完全版です。「法の前の平等」をモットーとする『ウーマンズ・トリビューン』は、1883 年 8 月、女性の参政権と政治的権利擁護支持者として知られる Clara Bewick Colby によって、ネブラスカ州ベアトリスの自宅で創刊され、その後 1 年間、ネブラスカ女性参政権協会の公式出版物となりました。

著名な公民権運動家の Susan B. Anthony は、『ウーマンズ・トリビューン』を全米女性参政権協会の機関紙とみなし、社会活動家の Elizabeth Cady Stanton は、この新聞を「これまで発行された中で最高の女性参政権獲得新聞」とし、彼女の最も重要な著作の自伝と『女性の聖書』の連載を許可しました。

女性参政権新聞としては 2 番目に長く続いた『トリビューン』は、他の多くの女性参政権新聞とは異なり、一般的な流通を目的としていました。Colby は、参政権を女性、特に中西部と西部の農村部の女性にとって重要で関心のある他の問題と結びつけるべきだと考え、紙面で政治的な問題や国際的な問題を取り上げます。『トリビューン』はおそらく女性によって発行された最初の女性紙であり、米西戦争中、Colby は女性戦場特派員として公式に認められた最初の人物でした。

## The National Standard: A Women's Suffrage and Temperance Journal

1870 年に出版されるや否や大評判となった The National Standard: A Women's Suffrage and Temperance Journal は、19 世紀後半の 2 大社会運動—婦人参政権運動と禁酒運動—を支えた出版物です。社会的・政治的改革や文学文化に関する女性の視点を発表する場を提供し、飲酒の害悪を禁止する取り組みを強化しました。

この出版物は、Aaron M. Powell と Lydia M. Child という出版人と編集長による出版活動を通じて発展しました。最初の出版は 1870 年 5 月に The Standard: A Journal of Reform and Literature と題した月刊誌として始まります。初版の Child によるネイティブ・アメリカンに関する巻頭記事からもわかるように、女性の権利と社会改革の大義のもと読者を結集させることを目指しました。

同年 7 月には新聞形式に移行、『ナショナル・スタンダード』と改称し 主に女性の政治的権利、参政権、社会的・経済的改革に焦点を当てます。

1872 年 1 月、Powell は急成長する禁酒運動を支援するために焦点を拡大。新聞は The National Standard: A Temperance and Literary Journal と改題され、「独立・改革・文芸誌—すべての人に正義と平等の権利を」という最終的な目標を強調したモットーのもと、最終的に 1872 年 12 月まで刊行されました。



## The Lily

初の女性向け新聞『リリー』は、Amelia Bloomer アメリア・ブルーマー (1818-1894) の編集のもと、1849 年から 1853 年まで発行されました。ニューヨーク州セネカ・フォールズで発行され、年間 50 セントの価格で販売されたこの新聞は、1848 年に結成されたセネカ・フォールズ婦人禁酒協会の会員に「家庭配布」するための禁酒雑誌として始まりました。ブルーマーは出版にまつわる全責任を引き受けるようになり、1850 年、「婦人委員会発行」に代わり、題字にはブルーマーの名前だけが記されるようになります。

女性が禁酒協会やその他の改革活動から排除されていたことが創刊の主な原動力となりましたが、『リリー』は当初は急進的な新聞ではなく、「家庭の擁護者」という女性のステレオタイプに沿ったもので、節約、出産、教育などの話題を扱っていました。しかし、この新聞は次第に他のテーマについての記事も掲載するようになり、その多くは Elizabeth Cady Stanton が「サンフラワー」というペンネームで書いたものだった。ブルーマーは Stanton に大きな影響を受け、次第に女性の権利に目覚め、法の下の不平等について執筆し改革を要求するようになりました。ブルーマーは服装改革にも関心を持ち、ニューヨーク州ジュネーブの Elizabeth Smith Miller が着用した、膝丈のドレスにズボンを合わせた「ブルーマー・コスチューム」として知られるようになった服装を女性に着用するよう提唱しました。ブルーマーはパンツとチュニックの服を考案したことを自分の手柄とすることを拒みましたが、『リリー』誌に掲載された彼女の記事と挿絵のおかげで、彼女の名前はこの服と結び付けられるようになりました。この服装改革論争の結果、『リリー』誌の発行部数は毎月数百部から数千部へと飛躍的に伸びました。



## The National Citizen and Ballot Box



アメリカの女性の権利擁護者で、女性参政権運動の指導と広報に貢献した Matilda Joslyn Gage が所有し、編集していた本誌は、アメリカのフェミニズムのルーツに深く関わった月刊誌です。1878 年、Gage はオハイオ州トレドの参政権協会が発行していた『Ballot Box』誌を買い取り、『The National Citizen and Ballot Box』と改名。目論見書にその意図をこのように記しました。「この新聞の特別な目的は、選挙権を行使する女性市民に対する国家的保護を確保することである.....どのような形であれ、階級立法に反対する.....あらゆる階級、境遇、地位、名前の女性が、この新聞を自分たちの友と見なすだろう」Gage はその後3年間、主筆を務め、さまざまな問題に関するエッセイを発表します。毎号「ペンが剣よりも強し」のモットーのもとに、歴史上の著名な女性や女性発明家についてのコラムを定期掲載しました。男性が自分の子供を母親とは無関係の後見人に託すことを認める法律について書いた彼女は、「生きている女よりも死んだ男のほうがいいこともある」と持ち前のドライなウィットと皮肉なセンスでコメントしています。

1826年、Matilda Joslyn Gage はニューヨーク州シセロで生まれ、「地下鉄道」の駅でもあった奴隷廃止論者の家で十分な教育を受けて育ちます。全米女性参政権協会の創立メンバーであり、20年にわたって同協会のさまざまな役職を務めた筋金入りの女性参政権論者、そしてオズの魔法使い』の作者であり、ゲージの娘モードと結婚した彼女の熱心な義理の息子、L・フランク・ボームが主張するように、同時代で最も才能ある多作な作家でもありました。

## The Revolution

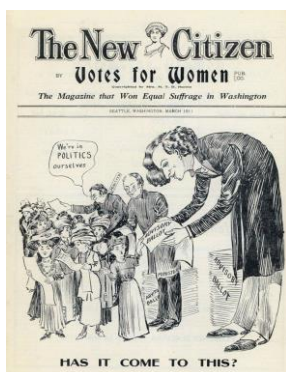
Elizabeth Cady Stanton と Susan B. Anthony によって結成された全国女性参政権協会の公式出版物です。1868年1月から1872年2月まで発行されたこの新聞は、Stanton と Parker Pillsbury が編集し、当初は裕福でエキセントリックとして知られていた民主党員、ジョージ・フランシス・トレインが資金を提供していました。

ライバル組織であった、the American Woman Suffrage Association は、当初男女同権問題の成功は州ごとのキャンペーンによってより容易に達成できると考えていました。南北戦争終結からわずか3年後、アフリカ系アメリカ人男性の参政権問題に議論は集中、多くの参政権論者は、女性参政権のための闘いをしばらく延期する必要があると感じていました。しかしながら『The Revolution』誌の編集者たちは断固としてこれに反対、妥協しない姿勢を貫きます。1890年、the National Woman Suffrage Association と American Woman Suffrage Association は合併、the National American Woman Suffrage Association が設立されます。

発行部数は3,000部を超えることはありませんでしたが、『The Revolution』誌の影響力は絶大で、性教育、レイプ、家庭内暴力、離婚、売春、リプロダクティブ・ライツ（生殖に関する権利）など、当時の主流出版物では取り上げられることのなかったテーマを扱いました。労働組合の結成、女性労働者に対する差別などにコラムを割り、労働者階級の女性を運動に引き込むのに貢献しました。しかしながら1869年以降、負債による赤字で経営権が移ったのちのはかつての社会的な論調は消え失せ、ついには1872年に廃刊となります。



## The New Citizen, Seattle, Washington



ワシントン州初の女性新聞社主とされる Missouri Hanna は、以前発行していた『Votes for Women』の後継誌『The New Citizen』の創刊者であり編集者でもありました。「ワシントン州で平等参政権を獲得した雑誌」というキャッチフレーズで、新しく権利を得た女性の役割に焦点を当て、労働法、離婚法、男女間の賃金格差、生殖に関する権利など、州や地域のさまざまな問題を論じた記事を掲載しました。

当時、西部諸州は女性参政権の承認においては全米をリードしていました。ワイオミング州の有権者は1889年、女性に完全な選挙権を認める世界初の州憲法を承認しています。1920年に修正第19条が議会で承認されるまでに、コロラド、ユタ、アイダホ、ワシントン、カリフォルニア、カンザス、アリゾナ各州も女性に完全な選挙権を認めていました。

## The Western Woman Voter

西部のすべての女性有権者に奉仕するために創刊された The Western Woman Voter は、ワシントン州での参政権成立後に創刊されました。シアトルの人気弁護士で著名な参政権論者であった Adella Parker がその原動力となり創刊されました。『The Western Woman Voter』は、「主として西部の女性有権者のための情報誌となることを目的とした出版物」であることを公約に掲げています。市政や州政府に関する問題、女性の法的権利に関する問題、家庭、子供、学校に関する問題など、それらが法律の影響を受ける限りにおいて論じていました。被選挙権を持つ各州の女性たちに、他の州の女性有権者たちの市民活動に関する情報を提供し、各地からの優れた政府機関に関するニュースを報道することを目的としています。



## The Remonstrance



ほとんどの女性が選挙権に賛成しているように思われるかもしれないが、参政権運動は当時のすべての人の希望を代表していたわけではありません。『The Remonstrance』は、女性への参政権のさらなる拡大に反対するマサチューセッツ協会の公式出版物でした。マサチューセッツ、メイン、ロードアイランド、ニューヨーク、イリノイ、アイオワ、オレゴン、ワシントン各州で、選挙権の拡大に反対する女性たちに討論の場を提供しました。彼女たちは、同性の大多数が投票権を欲しておらず、投票権を強制することは女性に対する不公平であるだけでなく、彼女たちの良い影響力を弱め、地域社会を危うくすると考えていました。『The Remonstrance』誌の一面には必ずこのような一文が掲載されていました。「諫言者たちは、公正な議論のために、自分たちの意見について思慮深い検討を求める」。記事は、州や市町村レベルでの参政権運動の敗北、参政権取り消しの努力、参政権の急進的な政治、参政権運動と反参政権運動の階級的区別、家庭における女性の地位の美点、反フェミニズム、イギリスの反参政権運動、急進的なイギリスのフェミニズムがアメリカの女性に与えた影響などを取り上げています。

## The Nineteenth Amendment Victory

本モジュールには、Coherent Digital のアフリカ系アメリカ人や南北戦争、第一次大戦、州の新聞コレクションに含まれる女性の権利に関連するタイトルの記事 18,000 件も収録しています。

19 世紀前半には、かなりの数の教育を受けた力強い女性たちが、事業を営み、開拓者として国中を移動し、改革運動に参加し、声を上げていました。本コレクションは、Lucretia Mott と Elizabeth Cady Stanton が組織したニューヨーク州北部のセネカ・フォールズ大会（1848 年）に至るまでの経過を追ったもので、財産、相続、教育に関する女性の法的権利の要求が、投票の平等を義務づけるものとどのように比較されたかを収録記事で紹介しています。1878 年に修正第 19 条が議会に提出されましたが、1919 年まで可決されませんでした。第一次世界大戦期の女性たちの努力は、参政権獲得に大きく貢献したのです。

History Commons 価格表	Very Large	Large	Medium	Small	Very Small
Women's Magazines & Newspapers 買い切り価格	詳細は弊社までお問い合わせください				

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください

※年間ホスティング費用は不要です

## Coherent Digital History Commons とは？

Coherent Digital の受賞歴のある Common ソフトウェアを使って、搭載されるすべての歴史文書を横断的に検索する機能をはじめ、高速なユーザーインターフェイス、索引の充実化、文書内に隠されたデータのエクスポート機能、ブール演算子や近接演算子を含む検索ツールの強化などを実現し、一次資料を活用した研究の促進に貢献する新しいプラットフォームが登場しました。

無料トライアル実施中!! 詳細お問い合わせは弊社まで

 日本総代理店 **極東書店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: [info@kyokuto-bk.co.jp](mailto:info@kyokuto-bk.co.jp)